

「失われた30年」を取り戻す価値創造に挑む。

イノベーション・エコシステムを科学的に解明し、
多様性と新結合による新たな価値創造に尽力する。

日本が「失われた30年」を取り戻し世界に貢献するためには、イノベーションによる価値創造が必要です。しかし現代社会では、個人や単一組織だけでの実現は困難であり、多様な組織や人材が連携・結合する「イノベーション・エコシステム」の構築が求められます。本研究では、イノベーション・エコシステムの成功要因やメカニズムを研究し、新たなイノベーション創出に向け、産学官連携で実践的研究を進めています。

研究代表者

藤田正典

FUJITA Masanori



立命館アジア太平洋大学
国際経営学部 教授

「世の中をもっと素敵に。人々をもっと幸せに。次世代に誇れる何かを残すために。研究と社会実装を続けます」

新規性・独自性 | 多様性とその結合を科学的に分析し、イノベーション・エコシステムの成功要因を解明。

本研究の独自性は、イノベーション・エコシステムを「多様なステークホルダーのネットワークによる価値創造の場」として捉え、その成功要因を多角的に分析する点にあります。ケーススタディによる質的分析、ソーシャル・ネットワーク分析、統計分析に加え、ゲーム理論やメカニズムデザインといった経済学のアプローチを活用し、エコシステムの構造と動態を解明しています。

例えば、スタートアップ・エコシステムの研究では、ユニコーン企業とVCの関係を可視化して分析し、国際間や業界間の知識伝播の可視化を行っています。また、スター研究者についての研究では、研究者の学際化や組織移動を分析して、学際研究の重要性を実証しています。マクロ・ミクロの視点を統合し、質的・量的分析を組み合わせ、制度やメカニズム設計まで見据えることが、本研究の大きな特徴です。

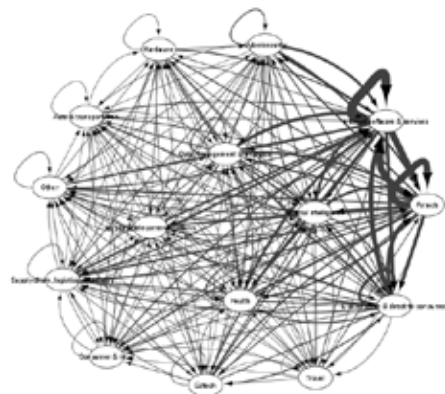
スタートアップ・エコシステムの構造と国際・業界比較研究

ユニコーン企業の企業価値やベンチャーキャピタル（VC）のパフォーマンスを可視化。それらの関係性をネットワーク分析して、成功しているユニコーン企業は巨大なクラスターに集中している構造があることを明らかにした。さらに、スタートアップ事業における知識が、VCのユニコーン企業への投資を通して、国際間、業界間で伝播していることを示した。

「国際的な投資の伝播」



「業界的な投資の伝播」



社会連携に向けて | 研究の知見をもとに、産官学連携で新たなイノベーション・エコシステム構築へ。

本研究では、アカデミアと社会・産業界の架け橋となるべく、すべての活動を社会実装に向けて実践的に進めています。

地域産業との連携では、半導体産業や宇宙・衛星産業でのイノベーション・エコシステム形成を目指し、大分県や九州工業大学などと産学官の関係をつなぐ場を創出しています。研究機関との連携では、東京大学や九州大学などと共同研究を行い、メカニズムデザインやネットワーク分析手法の深化と社会実装を目指しています。教育において

は、APUへ産業界からゲスト講師を招いて学生に実践的な学びの機会を提供し、地域産業との新たなアイデア創出の場をつくっています。本研究の特徴は、研究代表者が電気工学、人工知能、技術経営などを学び、総合商社において実務家として分野を横断した活動を行ってきたことから生まれています。今後も、理論構築と実践活動の両輪を強力に推進する独自の手法で、多様なネットワークを構築してイノベーションの創出に貢献し、世界に影響を与えることを目指しています。

